

ナイトタイムエコノミーの実現に 向けて

	2年	大前直哉
名古屋学院大学	2年	森田遼大
上山ゼミ	2年	前田圭涼
	2年	都築英悟

目次

1. テーマへの動機

→日本の現状、海外と比較して

2. ナイトタイムエコノミーについて

→事例(ニューヨーク、ロンドン)

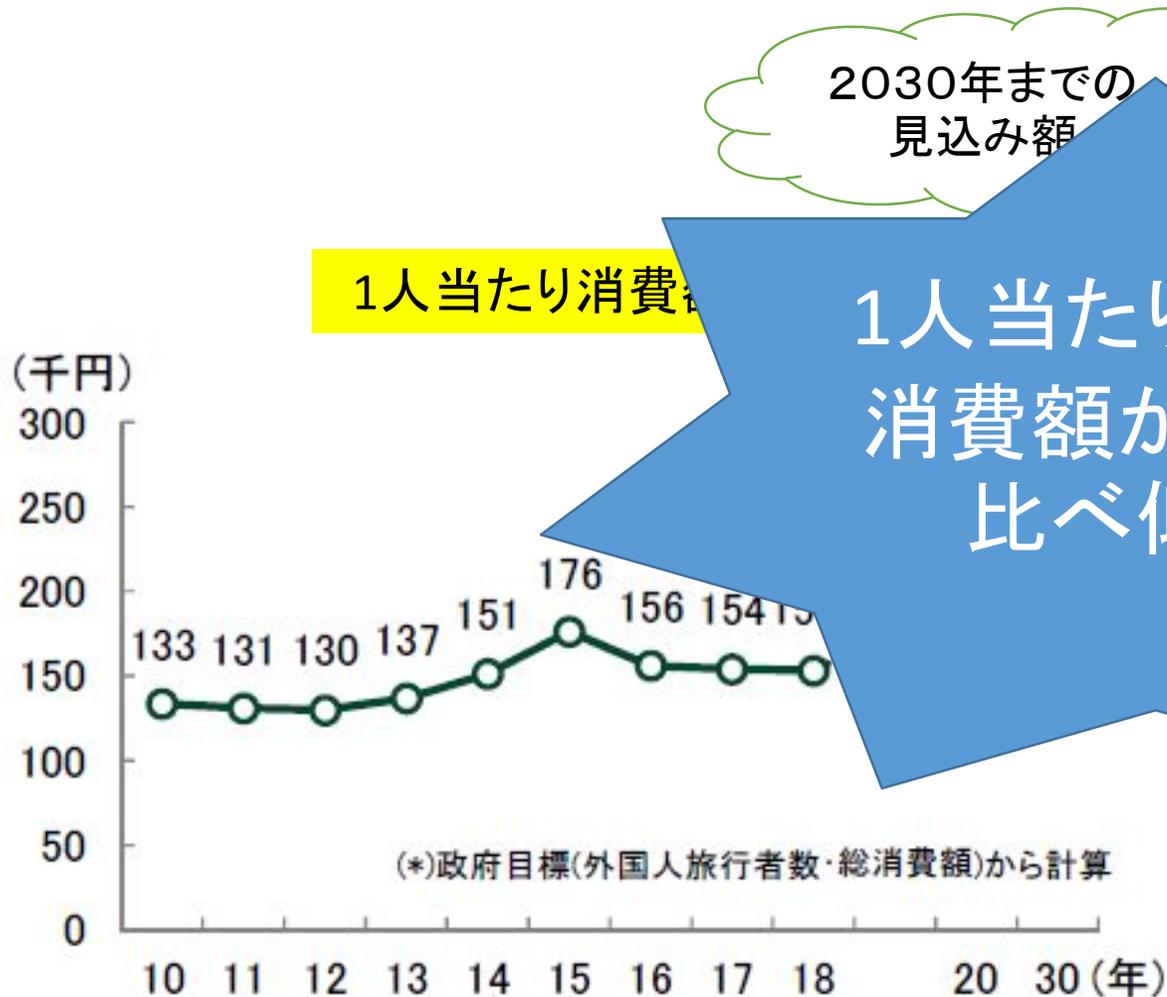
3. ナイトタイムエコノミーの日本での実現に向けて

→ ロボットレストラン、東京パブ、問題点

4. まとめ

1. 日本の現状

テーマへの動機



1人当たり消費額上位20国

順位	国名	1人当たり消費額
1	オーストラリア	242,050
2	スペイン	236,996
3	イタリア	224,268
4	フランス	223,640
5	英国	219,725
6	フランス	215,733
7	ドイツ	191,783
8	米国	191,352
9	ベトナム	189,427
10	ロシア	188,530



- 8時すぎには、商店街のどこの店も閉まっていた。
- 1時間かけてお店を見つけたが、終電を気にして、わずか30分で帰った
- 2人で2500円しか使わなかった。

注)NHK(大学・ゼミ活動では画像利用の権利許諾を必要としていない)

朝

昼

夜

- 神社、寺、人力車などの日本文化を体験する。
- 観光地巡り

夕食

- 街を散策
- ホテルに帰る

夕食後に、時間が空く→夜は、昼のような娯楽となるコンテンツが少ない。

夜の娯楽を増やすことによって、消費が増え、経済市場の増加が見込める

消費を増やすために

ナイトタイムエコノミー

- 夜間(20時～午前3時)の経済活動のこと
- コンテンツが不足していると言われる夕食後から就寝までの時間帯に、楽しめるコンテンツを拡充することが必要



- インバウンド対策としてナイトタイムエコノミーを積極的に推進していくことで、訪日外国人観光客の満足度を上げる。
- 停滞した日本経済を打破できるのではないかと期待されている。

インバウンド(消費)

訪日外国人観光客による日本での消費活動を指す観光用語。

2. ナイトタイムエコノミーについて

事例1

ニューヨーク

- ブロードウェイ
→夜8時以降のミュージカル公演
- 地下鉄の24時間運行
- ライドシェアなどの二次交通の浸透
- ナイトメイヤー(夜の市長)の創設



ナイトメイヤー

夜の街づくりのリーダー

クラブや、バー、レストランなど、夜の文化・経済の増進を図る象徴的な人物・組織

事例2

ロンドン

- ・全面ガラス張りのクルーズ船で、ビッグベンやタワーブリッジなど、ライトアップされた夜景を楽しめる。
- ・劇場周辺で食事をする「プレ・ホストディナー」
- ・地下鉄の主要路線を24時間運行
- ・ナイト・ツアー(=ナイトメイヤー)の創設
- ・パープルフラッグによる認定制度



パープルフラッグ

安心して夜遊びできる地域に、紫の旗の印をつけ、国がお墨付きを与える制度。
外国人観光客も訪れやすくなるため、街の改革が促進後押しを受けることができる。

海外での人気コンテンツ

エンターテインメント、ライブ、バー



ブロードウェイ(ニューヨーク)



The Rocks Pub Tour(シドニー)

グルメ、ショッピング



The Colonial Tramcar Restaurant(メルボルン)



Doota Mall(ソウル)

海外での人気コンテンツ

美術館、博物館の夜間活用



メトロポリタン美術館(ニューヨーク)



Anne Frank House(アムステルダム)

自然資源の夜間活用



Thames Dinner Cruise(ロンドン)



Foresta Lumina(モントリオール)

官民連携したまち全体のイベント



vivid sydney(シドニー)



Rod Fai Market(バンコク)

海外のナイトタイムエコノミーの特色

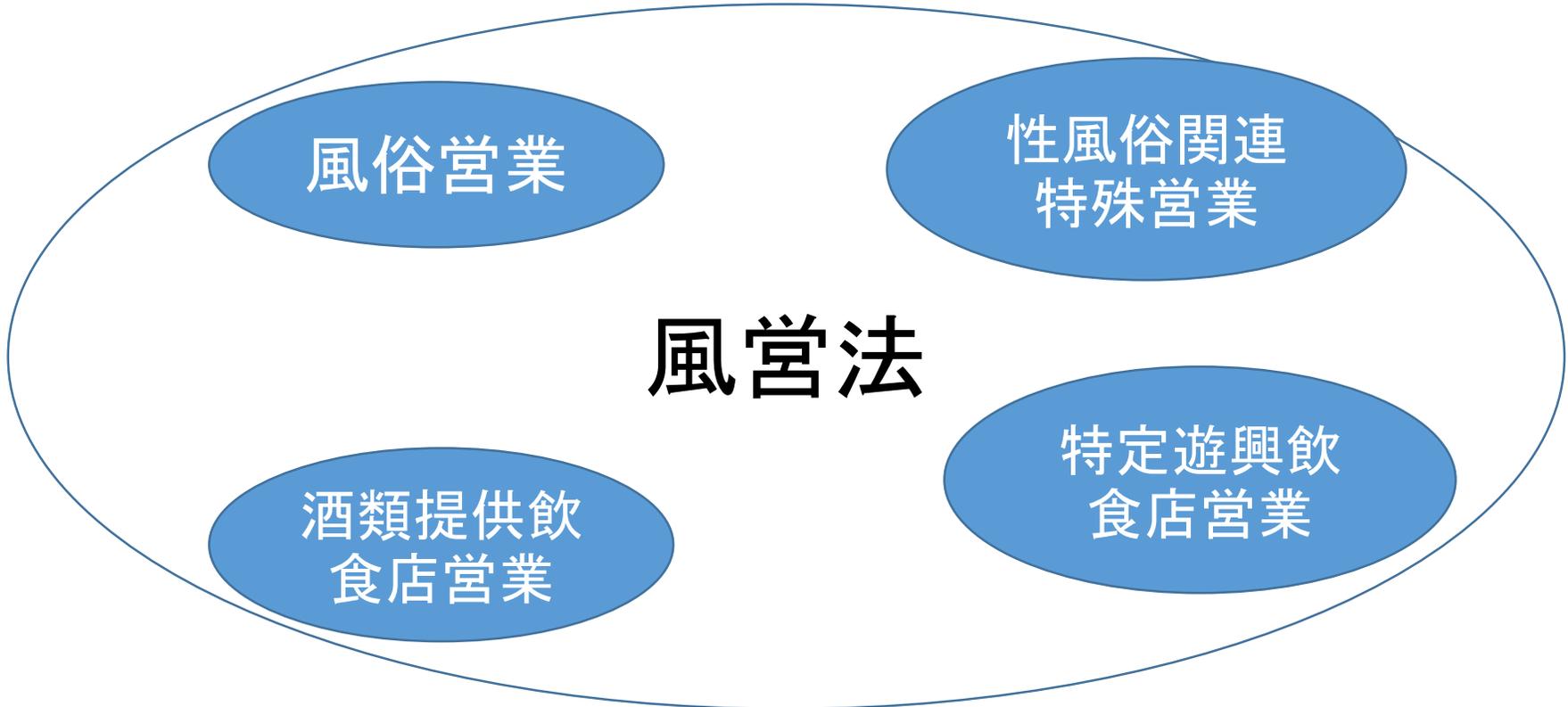
- その地域の文化を生かしたコンテンツが充実している。
- 夜間の交通整備がしっかりしている。
- ナイトタイムエコノミーによって、ロンドンは263億ポンド(約3.7兆円)、ニューヨークは191億ドル(約2.1兆円)の経済規模がある。



3 日本での実現に向けて

風営法について

風営法...風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律



風営法改正後(2016年6月23日施行)

以前風営法はクラブの営業は原則午前0時まで



都道府県公安委員会から
「特定遊興飲食店」の許可

原則24時間営業を行える

特定遊興飲食店許可の条件

場所的要因

- 営業所設置許容地域
- 保全対象施設からの距離

人的要因

- 日本国籍の方(外人が申請できる資格在留持っている方は例外)など

構造の要件

- 客室に見通しを妨げない設備であることなど



東京

日本のナイトタイムエコノミー

- **日本の固有性** 居酒屋、寺神社巡り
- **地域の交流** ツアー、クルーズ
- **親近感** パブ、バー
- **最先端** 最先端建物、アトラクション

注目スポット



ロボットレストラン



東京パブクローल

ロボットレストラン

食事をしながら、ショーを楽しめるレストラン。

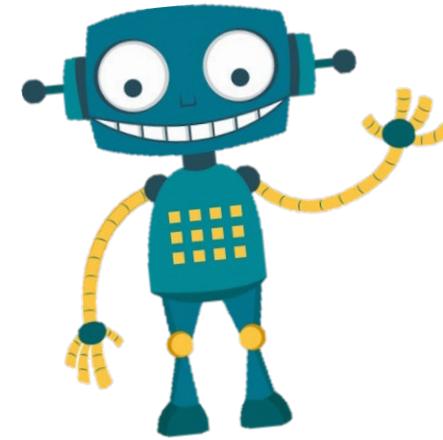
ショーは一日に3~4回開催しており、ロボットとダンサーがダンスや和太鼓でパフォーマンス。

特徴

入場料は食事代別で8000円、食事代は1000~1500円。

年間12万人、月に多いときで1万7000人以上の観客が来て、そのうち、8割以上が外国人。

最終公演は21:30から。



集客に成功した4つの要因

一. 口コミを投稿する導線作り

→座席、チケット、割引券などにQRコードを設置。東京駅、ハチ公像よりも多くの口コミを獲得。

一. 写真を撮りたくなる派手な店内

→内装をカラフルで派手にすることで写真撮影やSNSへのシェアを促す。店内はいつでも撮影可能。

一. 割引クーポンを発行

→割引クーポンを提供することで来店ハードルを下げる。

一. オープン時間は夜のみ

→外国人が暇になる時間帯にオープン

東京パブクロール



活動内容

- スタッフがグループを取り仕切り、友達同士、初対面同士、旅行者が共にバーを巡りながら一晩の交流を図る。
- 参加者は訪日外国人が7割
- 通常3~4軒周り1つのお店につき1時間滞在

アイリッシュパブの特徴

- カジュアルでフレンドリーな雰囲気、アイリッシュスポーツや伝統的なアイリッシュミュージックを中心としたユニークな文化
- 日本に住んでいる外国人もたびたび訪れ、色々な人々と交流できるイベントなども開催されている

参加者の声

評価

30件の評価のうちすべて満点評価

口コミ

- 価格に見合った価値がある。旅行中に友達を作る最適な手段！ーニューヨーク滞在
- 世界中の人々と楽しい夜を過ごせる場所。ーイングランド滞在
- ヨーロッパとアジアのパブクロールに行ったことがありますがそこに負けないくらいのパブクロールでした。ーシドニー滞在

(Tripadvisorより一部抜粋)

参加者は日本人も多数
訪日外国人の満足度は高い



問題点 & 解決策

- ① 労働環境
- ② 交通アクセス
- ③ 街の環境

① 労働環境

ターゲット 外国人労働者

外国人が日本で働くためには在留資格が必要！

現状として、日本の人材不足が深刻化

2016年6648万人→2025年6149万人にまで減少する見込み。(総務省の「労働力調査年表」より)

2019年4月 在留資格に「**特定技能**」が新設

5月 外食業の技能試験初めての結果発表 **75.4%**(460人中347人)が合格

高い合格率！多くがベトナム人

特定技能(ビザ)

- 一号 5年間滞在できる。一定の技能を要する
- 二号 期限なし。熟練した技能を要する。

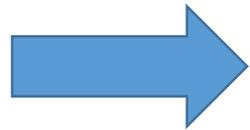
外国人アルバイトはパスポートと在留カードを持って、入国管理局で資格外活動許可を得れば、働くことができる。

※短期滞在や観光目的の外国人は許可をもらうことはできない。

外食業への受入れは5年間で最大5万3000人を見込んでいる

② 交通アクセス

- 人手不足により公共交通機関は終日運行を行なうことが難しい



運行本数・時間帯の工夫、2次交通(路線バス、ライドシェア等)の拡大

～運行本数・時間帯の工夫～

- 週末(金、土)のみ、深夜帯は1時間に1, 2本の運行

～2次交通の拡大～

- 地下鉄が深夜に止まっても主要駅で乗り換えられる体制づくり
- 地下鉄の路線上に代わりとなる路線バスの運行
- カープール型のライドシェアの拡大

③ 街の環境

安心安全の確保が必要不可欠！

夜の街やコンテンツに対する安心、安全面の不安

→安心安全確保のための各種環境を整備(騒音、清掃、ごみ処理、アルコール、監視、街灯・標識、通信環境等)

対策)セキュリティー強化(客引き防止、条例の周知・啓発、条例違反者への指導)

ナイトメイヤー(夜の市長)の創設

夜の世界の窓口として情報や要望、不満を集約し、問題解決へ向けて調整していく。
パープルフラッグ制度の促進を進めていく。

パープルフラッグ制度

安全性を仕組みで担保できているエリアの認証制度のこと

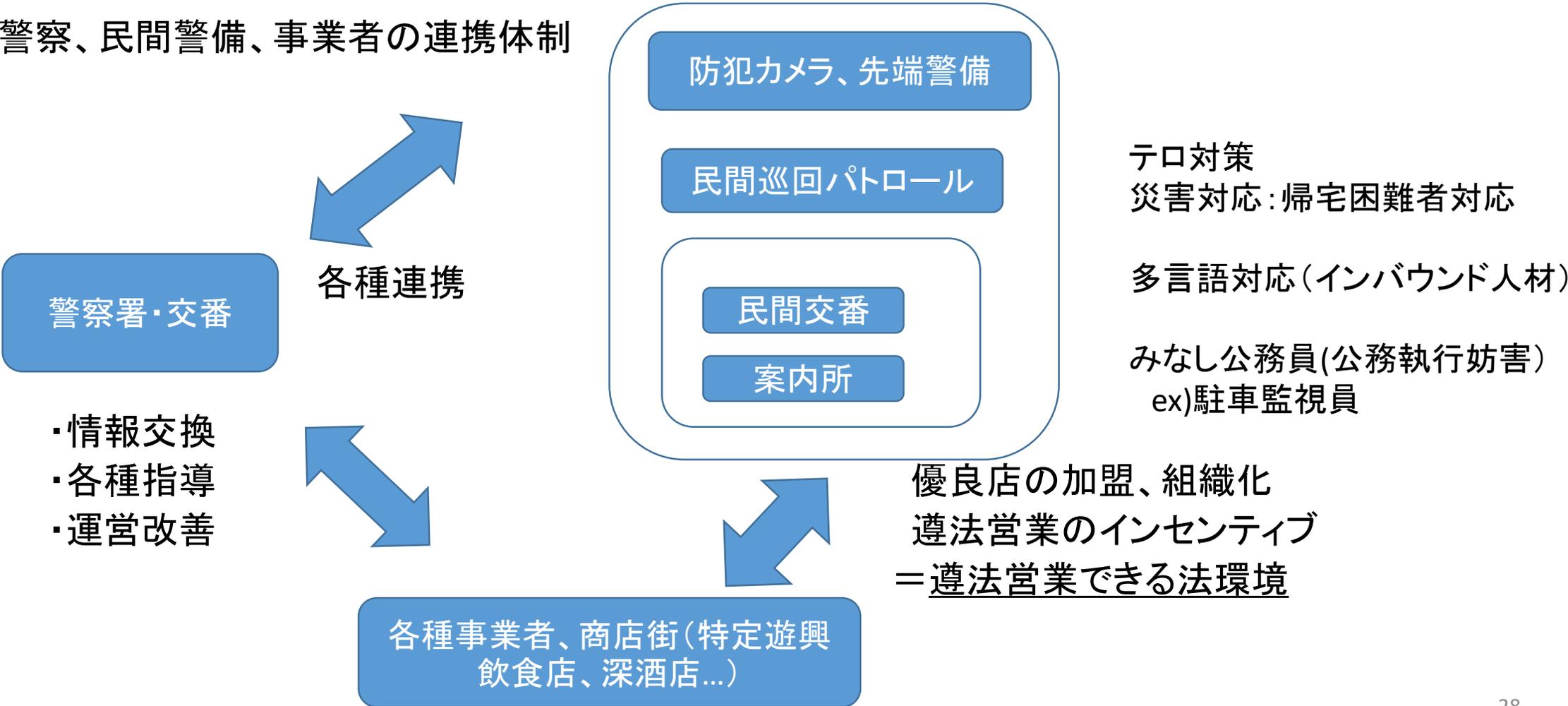


「安心して夜遊びできる街」と
国がお墨付きを与えた地域

ex) ロンドン

日本版パープルフラッグ試案

警察、民間警備、事業者の連携体制



まとめ

- ・訪日外国人観光客は増加傾向にあるが、一人当たりの平均消費額は15万円程度と低迷している。
- ・世界規模で夜の経済活動が活発化している。しかし、日本では夜の娯楽コンテンツが少なく、夜間に対する観光客の満足度は低い。
- ・日本でも夜の経済活動を活発化するために、風営法が改正され以前より自由に夜間のビジネスに参入できるようになった。
- ・課題として、交通整備、安心安全の確保、労働環境の整備が必要である。

参考文献

- 訪日外国人観光客・出国日本人データhttps://www.jnto.go.jp/jpn/statistics/visitor_trends/
- ナイトタイムエコノミーの海外事例と日本の動向<https://www2.deloitte.com/jp/ja/pages/real-estate/articles/re/ir-business-night-time-economy.html>
- 新宿歌舞伎町「ロボットレストラン」がインバウンド集客に成功した4つの理由とは？
<https://inboundnow.jp/media/case/1233/>
- 2019年 東京パブクロールへ行く前に！見どころをチェック-トリップアドバイザー
https://www.tripadvisor.jp/Attraction_Review-g1066451-d6417143-Reviews-Tokyo_Pub_Crawl-Minato_Tokyo_Tokyo_Prefecture_Kanto.html
- ナイトタイムエコノミー推進に向けたナレッジ集<https://www.mlit.go.jp/common/001279567.pdf>
- ロンドンのナイトタイムエコノミー
<https://www.boy.co.jp/hojin/kokusai-gaitame/asia/pdf/LD180511.pdf>
- 外国人スタッフ採用 飲食店.COMhttps://www.inshokuten.com/recruit/knowledge/tag/hiring_foreigners
- ナイトタイムエコノミーが日本を救う！？～観光立国・新戦略～
<https://www.nhk.or.jp/gendai/articles/4055/>